

# 株式会社フィスコ

2006年11月14日



第3四半期（2006年1～9月）決算  
並びに、今期の業績予想に関する説明資料

## 目次

1. 今期の業績について
2. フィスコの事業構成
3. 2006年12月期第3四半期決算概要
  - 連結損益計算書、連結貸借対照表の主要項目推移
4. 2006年12月期通期業績予想（修正後）の前期実績との比較
  - 連結売上高、連結利益
  - 主要3事業の売上
  - 第3四半期における経営戦略具現化のための取り組みと結果
  - 第3四半期における経営戦略具現化の遅滞要因
5. 今後の重点施策

本資料に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、本資料に記載した予想数値と異なる場合があること、また、本資料は情報の提供のみを目的として作成しており、投資等取引の勧誘を目的に作成しておりませんことをご留意ください。

## 今期（2006年1月～12月）の業績について

今期の当社連結業績は、前期比増収・減益の見込に業績予想を修正しました。売上は、前期比13.5%増と予想され、当初予想の25.3%増を下回ります。

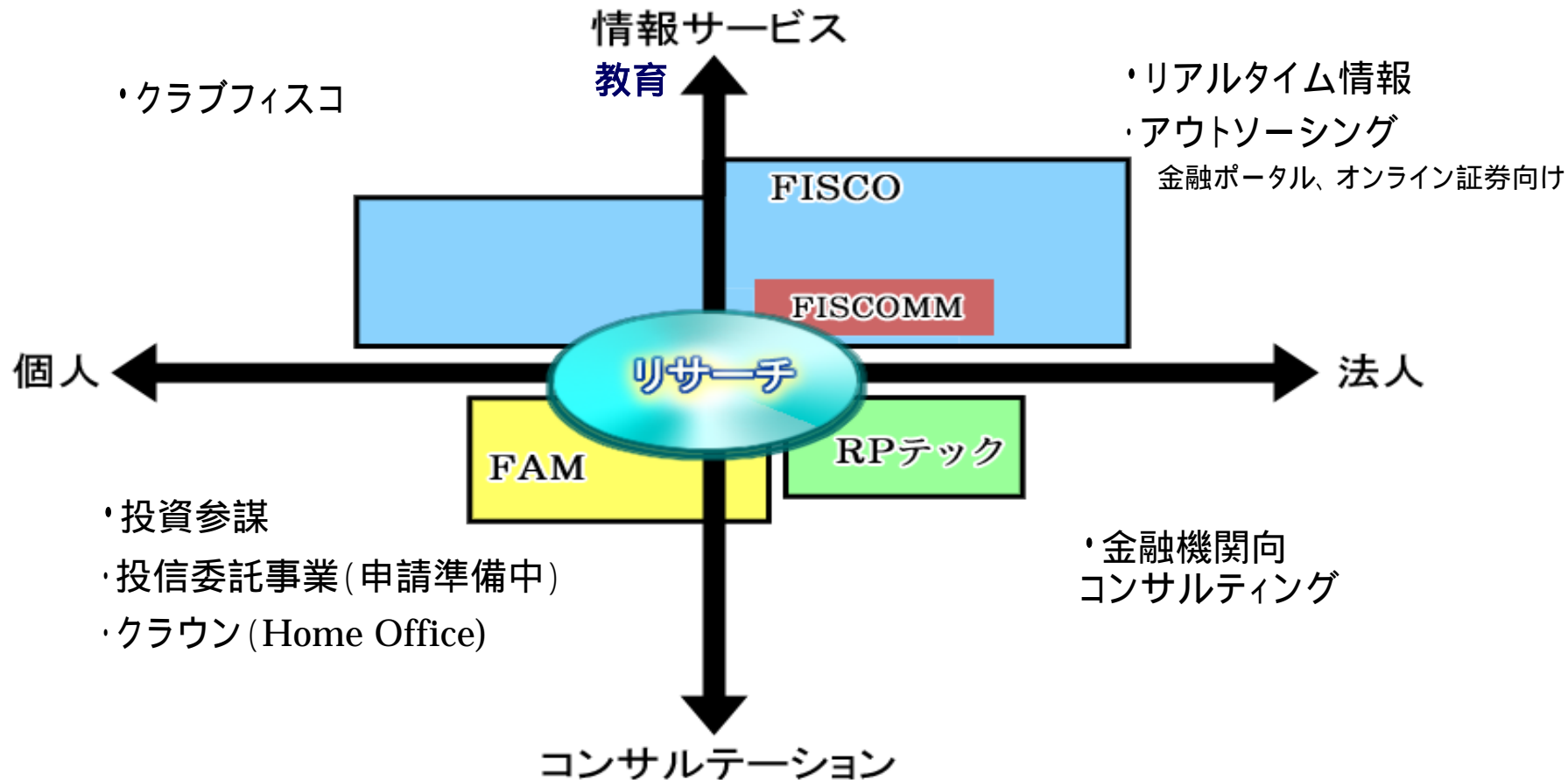
これは、新規事業であるクラブ・フィスコ、コンサルティング事業（RPテック、フィスコ アセットマネジメント）、フィスコ コモディティの立ち上りペースが市況の影響もあり、売上の実現が予定より遅延したことが主因です。

但し、これらの遅延要因は、当社の中期的戦略の変更を迫られるものではなく、従って将来の成長に必要な投資、体制の整備のための施策は計画に沿って実行しております。

今期は、こうした将来に向けた先行的出費増に対して、売上の増加が追いつかず、利益水準を一時的に押し下げる結果となります。但し事業の成長に向けた事業基盤の強化・充実を着実に図られていますので、来期以降そうした施策が結果となって現れるものと確信しています。

# フィスコの事業構成

より良い投資の実現を支援する、独自の金融サービス業を推進してゆきます



## 連結損益計算書主要項目、対売上比 (中間期2006年1-6月との比較)

単位:百万円

	2006年1-6月 対売上比		2006年1-9月 対売上比		
売上高	492	-	732	-	
売上総利益	352	71.6%	521	71.2%	注1
販売管理費	321	65.3%	492	67.2%	注2
経常利益	28	5.7%	23	3.1%	
当期純利益	13	2.7%	10	1.4%	

注1) 売上高総利益率が低下したのはリサーチ部門の人員増によるもの

注2) 売上高販管費比率上昇の要因は主にシステム関連投資によるもの

## 連結貸借対照表 主要項目の推移 (2006年1-6月との比較)

単位:百万円

	2006年1-6月	2006年1-9月	増減
<b>流動資産</b>	896	744	-152
・現預金	756	577	-179
<b>固定資産</b>	439	604	165
・有形固定資産	69	69	0
・無形固定資産	153	142	-11
・投資その他資産	216	392	176
<b>資産合計</b>	<b>1,344</b>	<b>1,357</b>	<b>13</b>
<b>流動負債</b>	103	89	-14
<b>固定負債</b>	54	44	-10
<b>負債合計</b>	<b>157</b>	<b>133</b>	<b>-24</b>
<b>株主資本</b>	1,186	1,198 注1	-
評価・換算差額等	-	1	-
新株予約件	1	1	-
少数株主持分	-	24	-
<b>純資産合計</b>	<b>1,187</b>	<b>1,223</b>	<b>36</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>1,344</b>	<b>1,357</b>	<b>13</b>
<b>株主資本比率</b>	<b>88.3%</b>	<b>90.1%</b>	<b>1.8%</b>

注1) ストックオプションが7-9月期に行使され資本金が約13百万円増となった

## 今期業績予想(修正後)の対前期実績比

単位:百万円

	2005年1-12月(実績)	2006年1-12月(予測)	増減	
連結売上高	866	983	117	13.5%
情報サービス事業	794	915	121	15.2%
コンサルティング事業	43	41	-2	-4.7%
教育事業	27	26	-1	-3.7%
連結経常利益	90	26 注1	-64	-71.1%
連結最終利益(当期利益)	106	13 注2	-93	-87.7%

注1) 2006年の予想連結経常利益は上場関連費用30.5百万円を除くと56.5百万円となります

注2) 前期は税務上の繰越欠損の翌期以降の税効果を認識したため、利益押し上げ効果が20百万円あった。これにより当期においては法人税19百万円の発生を想定しています。この結果今期連結純利益は税要因分として前期比39百万円減少することを見込んでいます

## 主要3事業の前期実績対今期予想(修正後)

リアルタイムサービス				
	2005年 1-12月(実績)	2006年 1-12月(予想)	前年比	増減(%)
売上高 (百万円)	406	461	55	13.5%

アウトソーシング&ポータル				
	2005年 1-12月(実績)	2006年 1-12月(予想)	前年比	増減(%)
売上高 (百万円)	161	203	42	26.1%

クラブフィスコ				
	2005年 1-12月(実績)	2006年 1-12月(予想)	前年比	増減(%)
売上高 (百万円)	168	212	44	26.2%



## 当第3四半期における経営戦略具現化のための取り組みと結果

### 1. 【7月】子会社(株)フィスコアセットマネジメントへの増資を実施

投資信託委託業務への本格参入へ向けた、認可申請進行中。

### 2. 【8月】フィスコ法人営業部門の増強を実施、売上増・契約増につなげる

事業の基盤である営業部門の人員を増強し、フロント営業およびバックオフィス業務（ヒアリング調査実施、データ整備・分析等）の両面から増強を図る。

情報アウトソーシング&ポータル契約状況 対2006年半期末 契約社数 +7社 (+21.9%)

### 3. 【8月】子会社(株)フィスココモディティの成長傾向が明確になる 前事業年度末設立

### 4. 【9月】クラブフィスコ会員4万人を達成 (2006年12月達成目標 5万人)

### 5. 【9月】個人投資家サポートツール「バリューサーチ」をリリース

フィスコの代表的なコンテンツを、リアルタイムに近い条件で利用できるほか、各コメントのカテゴリ別絞り込みや銘柄コード検索機能を付帯、長年のユーザからのリクエストに応えての開発。

### 6. 【7-9月】 厳しい収益環境の中、成長に向けた投資は優先して実行(上記1-5以外)

顧客増を可能とする為のシステム増強、ノウハウ、技術導入の為の外部専門家の活用と採用等、積極投資を行う。

## 当第3四半期における経営戦略具現化の遅滞要因

1. **株式市況の低迷 【1】子会社(株)フィスコアセットマネジメントの成功報酬収入減少**

顧客ニーズが高く、投資助言サービスのポートフォリオの主要構成要素となっている株式投資、特に新興市場において、長引く市況調整の影響を受けた。  
第4四半期以降は、投資信託事業は認可取得を経て、投信関連事業の迅速な立ち上げと事業の収益化を目指す。
2. **株式市況の低迷 【2】クラブフィスコ(個人向け情報販売事業)の売上減少**

主に新興市場の低迷により個人投資家の投資意欲が減退。新商品・サービスの積極投入を進めたが、落ち込みを補うまでには至らず。第4四半期以降は、強力な新サービス投入と会員数の継続拡大で売上拡大につなげる。
3. **新規事業立ち上げの遅れ 【1】子会社(株)フィスココモディティの情報配信事業**

昨年12月の事業開始直後より潜在顧客に対する積極的な営業を行うが、想定以上の試用期間の設定を求められるケースが多く、上期は配信実績の積み上げと下期以降に向けた顧客開拓およびニーズ発掘に注力。当四半期以降売上および契約件数は着実に増加しているが、通期計画の遅れを完全吸収するにはまだ至らず。
4. **新規事業立ち上げの遅れ 【2】コンサルティング事業**

上期の開始を予定していた地銀向けコンサルティングサービスの立ち上げが当期下期にずれ込む。実現性に関する不安要素はない。

## 今後の重点施策について

- 2009年12月までに連結売上20億円、経常利益3.5億円の目標を達成します
- 顧客の投資パフォーマンスに貢献すべく、リサーチ部門の拡充を最優先課題として進めます
- 顧客基盤の広がりに対応するため、サービスの開発体制と営業の強化、またシステム面の機能拡充(来期のシステム開発投資2億円)を進めています
- クラブフィスコを中心にE-コマース事業への取組みを進めています
  - 2009年12月までに会員50万人獲得を目標とします
- フィスコ・アセットマネジメント社は投資信託委託事業に本格参入します
  - 現在、投信委託事業の認可申請準備中で認可を取得次第、第一号投信を組成します
- RPテック社を中心に、金融機関向けコンサル事業への取組みを進めています